

授業展開例（生活単元学習）

1 校種・学部・学年 特別支援学校 中学部 第3学年

2 単元名：修学旅行

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学級は中学部第3学年と中学部第2学年で編制されている複式の単一障害学級である。(本単元は中学部第3学年の単元である。第2学年の生徒は宿泊学習の単元を学習している。)

生徒3名とも表出言語は少ないが、教員の言葉による指示を概ね理解して行動することができる。生徒Aは、発語することはできないが、書いてある言葉を書き写すことはできる。また、自分の意思を表現するときは絵カードを選び、提示することができ、教師の言葉かけを聞いたり、模倣したりすることによって、自分から行動できることが増えてきている。生徒Bは、文字の読み書きやなぞり書きをすることは難しいが、今年度になって話す語彙が増えている。集中力が持続しにくい面があるが、必要に応じて模倣や言葉かけによって継続して学習に取り組むことができつつある。生徒Cは、文字の読み書きが概ねできており、会話でコミュニケーションを取ることができ、音声言語での指示も通りやすくなっている。しかし、コミュニケーションの際に、自分が言いたいことを優先してしまい、他者の気持ちを感じ取ったり、思いを聞いたりすることが難しい。生徒たちは、生活単元学習などの授業で、自発的に挙手し発表したり、自分で選択した役割を責任をもって果たしたりすることができるようになってきた。また、生徒どうしでお互いの存在を意識し、他者ができたことを認める気持ちを拍手で表したり、達成感を共有するためにハイタッチで感情を表わしたりするようになってきている。

(2) 単元観

生活単元学習は、生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習することをねらいとしている。本単元は、9月に実施する修学旅行を扱うことで、公共交通機関（JR）の利用、レストランでの食事、金銭の支払い、宿泊施設での入浴や食事など日常生活に関係の深い施設や公共物等の利用の仕方を身に付けたり、社会人としてのマナーの向上、自立心、向上心など、生徒の自立的な生活に結びつく力を育んだりすることに適していると考えている。また、修学旅行を通して、互いの存在を意識し合い、共感的な人間関係を育成する良い機会ともなると考えている。

(3) 指導観

事前指導で調べたことやわかったことを、実際に体験し見聞を広め、事後活動で振り返る中で、気付いたことを整理し、再度活用させることで生活の中で自立して生きる力に結びつくと考えている。

本時の授業では、公共交通機関（JR）を利用する際に、「お願いします」「有難うございました」などあいさつをしたり、他者とやりとりしたりする実生活に関連の深い内容を設定する。具体的には、修学旅行で実際に行ったJR利用の際に切符を財布から取り出して、駅員に受け渡す場面を再現する。展開の最初の場面では、修学旅行のビデオ映像（自分たちがJRを利用し切符の受け渡しをする場面）をもとに、どのような行動を取っていたのかを振り返る。どのような点を改善したらもっとよい切符の受け渡しができるのか、課題改善のポイントを明確にする。次に、その改善ポイントを意識させ、実際の切符の受け渡し場面を設け、ロールプレイを行う。スモールステップを組み、はじめはT1が生徒BとC、T2が生徒Aと客役と駅員役を行う。お互いのやり取りが定着したところで、生徒BとCでやり取りを行うよう指導する。なお、生徒Aが落ち着いてやり取りができるようになっている場合は、生徒Bとやり取りを行うよう指導する。**このような、ロールプレイを通して、相手を大切にするように意識して行動をすることが、自分も大切にすることになることに気付かせたい。展開の最後には、切符の受け渡し場面を、一人ずつ全体の場で発表する。ここでは、友だちが、がんばって演じている様子を見て感じたことを、拍手やハイタッチをすることで表現したり、感想を出し合ったりするよう指導する。このような指導を通して、生徒が自己存在感をもち、お互いに尊重する意識を育てたい。**

4 単元の目標

- ・計画的な買い物を行い，金銭の取扱いに慣れる。
- ・自分の住む地域や我が国のいろいろな地域の様子に関心をもつ。
- ・日常生活に関係の深い施設や公共物などの働きがわかり，利用する。

5 指導計画（全14時間）

- <事前>旅行の目的・日程・行先を知る，自分の目標を考える・・・1時間
 見学地について知る・・・1時間
 公共の交通機関・見学地・ホテル等の利用マナーや非常事態の対応について知る・2時間
 しおり作成し，目的・日程等を確認する・・・3時間
 荷物の確認等しおりを見て，最終確認をする・・・2時間
- <事後>しおりや写真を見て修学旅行を振り返る・・・1時間
 新幹線の改札の再現学習をする・・・2時間（2/2）
 感想等を発表したり，壁新聞にまとめたりする・・・2時間

6 本時の展開

(1) 本時の目標

○教科等の目標

- ・JR乗車の際に行う切符の受け渡しを，あいさつやお礼の気持ちを言葉や態度で表現しながら行うことができる。

○人権教育の視点

- ・他の生徒の切符受け渡しの様子を見て感じたことを拍手や，ハイタッチをすることで表現したり，感想を伝えることで，他者を認める気持ちを表現したり，自分の良かったところを肯定的に受け止めることができる。

(2) 評価の観点

- ・自己の課題を明確にして，切符の受け渡しのロールプレイに積極的に繰り返し取り組んでいる。
- ・他の生徒の切符の受け渡しの様子を見て感じたことを拍手や，ハイタッチをすることで肯定的な意思表示をしている。

(3) 準備物

パソコン，電子黒板，生徒の写真，VOCA，財布，切符，バッグ，帽子，卓上ベル，足型シート，絵カード

(4) 学習展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点	評価方法
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・今日の学習内容の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を提示し，確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が目標を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言内容

	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点	評価方法
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で、実際に生徒が切符の受け渡しを行った場面をビデオ映像で振り返る。 ・一人一人自己の課題を意識して、切符の受け渡し場面のロールプレイを行う。 ・はじめは、生徒と教員でロールプレイを行う。 ・やり取りが定着したところで生徒同士でロールプレイを行う。 ・一人一人が全体的場で、切符のやり取りを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒が、課題意識を持ち改善のポイントが分かるよう、切符のやりとりの場面を見て、視線の向け方、言葉のかけ方と態度を見るよう声をかける。 ・活動の見通しをもてるよう、活動の手順を示す。 ・生徒BとCはT1と生徒AはT2と、客役と駅員役を行う。 ・BとCでロールプレイを行う。生徒Aが落ち着いてやり取りができる場合は、生徒Bとやり取りを行う。落ち着いていない場合は、教員と行う。 ・ロールプレイをした相手に対し自分の気持ちを言葉や態度で伝える。 ・切符のやりとりを観察して、言葉や拍手・ハイタッチ等の態度で肯定的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> A: カートを使い、意思表示すると共に視線を相手を送り、教員の補助を受け切符のやりとりを行っている。 B: 教員の言葉かけによるヒントを受けながらも、視線や声の大きさを適宜に調整し切符のやりとりを行っている。 C: 自分一人で、相手と視線を向け、声の大きさやトーンを役割に合わせて調整し、切符のやりとりを行っている。 ・他の人の活動をしっかりと見て、感じたことを言葉や態度で云えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察及び本人の発言や態度の観察 ・発表内容と発表を見聞きする態度の観察
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の内容（本時で試技ができなかった生徒が次回試技を行う）を知る。 ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容を具体的に示し、見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の試技の振り返りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察